

## 今月の御教え

大蔵省は人間の口をみたようなもので、その口に税金が納まらぬ時は、四分板張った戸一枚で寝てはおられぬ。どこの太郎やら次郎やらわからぬようになろうぞ。

……金光教祖御理解 第八十二節……

解説 明治になり、日本は欧米に習い近代国家としての国の体制を整えるべく行政機構等を整備しその一環として国民の重要な義務として「納税の義務」を定めましたが、今まで年貢に苦しんできた庶民には「新しい時代になっても又、年貢で苦しめられるのか！」との思いが拭えず、その思いを教祖様に訴える人々が後を絶たなかつたことと思えます。

それに対して教祖様は「税金を集める大元締め『大蔵省』は人間でいえば口であり、食べへた食物が力となり体が動き仕事が出来ると同じく、税金を納めることにより、そのお金で警察組織等が整備でき、治安が保たれ、安心して生活ができるようになるのであり、そうでない、無頼の徒や無法者が野放しになり、兩戸を閉めて休んでいても、押し破って家宅侵入し生命財産も無事ではなくなる」と税金の使われ方の一例を示して「税金の重要性」を分かり易く教えられた御理解であります。

若い時から税を納めることに怠りなく、一心に働いて、少しでも多く納めることを心掛けてこられた教祖様ならではの明快な論調ではありませんか。